

岡病防第18号
平成25年10月2日

各関係機関長 殿

岡山県病害虫防除所長
(公印省略)

病害虫発生予察情報について

病害虫発生予報第7号を下記のとおり発表したので送付します。

平成25年度病害虫発生予報第7号

平成25年10月2日
岡 山 県

予報概評

作物名	病害虫名	発生時期	発生量
水稲	トビイロウンカ	—	やや多
ダイズ	ハスモンヨトウ	—	並
果樹	カメムシ類	—	やや少
キュウリ	褐斑病	—	やや多
キュウリ・ナス	ミナミキイロアザミウマ	—	並
アブラナ科野菜	ハクサイ白斑病 ハクサイべと病 軟腐病 黒腐病 コナガ ヨトウガ アブラムシ類 モザイク病 ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ オオタバコガ	遅 やや遅 — 並 — — — — — — — —	少 少 並 やや多 やや少 やや少 やや少 やや少 並 並 並
キク	ナミハダニ オオタバコガ	— —	やや少 やや多

1. 普通作物

(水稲)

1) トビイロウンカ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における9月1～5半旬の誘殺数は166頭で、平年(35.3頭)より多かった。

イ. 9月19～20日の巡回調査(南部地帯)によると発生圃場率は12.8%で、平年(22.6%)より低かった。

ウ. 9月27日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、本虫の発生を助長する要因となる。

防除上の参考事項

ア. 平成25年度植物防疫情報第7号(平成25年9月10日発表)参照

(ダイズ)

1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は1,422頭で平年(2,288頭)より少なかった。

イ. 9月3～5日の巡回調査における白化葉(被害葉)の発生圃場率は23.1%であり、平年(30.8%)よりやや低かった。

ウ. 9月27日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、本虫の発生を助長する要因となる。

2. 果樹(全般)

1) カメムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における9月1～5半旬の誘殺数は、チャバネアオカメムシは96頭で平年(122.0頭)よりやや少なく、クサギカメムシは1頭で平年(2.7頭)並、ツヤアオカメムシは33頭で平年(77.3頭)より少なかった。

3. 野菜

(キュウリ)

1) 褐斑病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 9月24～25日の巡回調査によると発生圃場率は100%で、平年(91.6%)並であった。

イ. 9月27日発表の季節予報によると、10月の気温は平年よりも高く、降水量は平年並とされており、発病を助長する要因となる。

(キュウリ、ナス)

1) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月24～25日の巡回調査によると、発生量は平年よりやや少なかった。

イ. 9月27日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、本虫の発生をやや助長する要因となる。

(アブラナ科野菜)

1) ハクサイ白斑病

予報内容

発生時期 遅

発生量 少

予報の根拠

ア. 9月24日の県予察圃場の調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 9月24～25日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(19.1%)より低かった。

ウ. 9月27日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は平年並とされており、発病を抑制する要因となる。

防除上の参考事項

ア. 秋作では生育中期から結球期に初発生することが多いので、初期防除を徹底する。

2) ハクサイべと病

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 少

予報の根拠

ア. 9月24日の県予察圃場の調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 9月24～25日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(7.6%、過去10年間のうち5年間は0%)並であった。

ウ. 9月27日発表の季節予報によると、10月の気温は平年よりも高く、降水量は平年並とされており、発病を抑制する要因となる。

3) 軟腐病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月24日の県予察圃場(ハクサイ)における調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 9月24～25日の巡回調査によると、ハクサイでは発生を認めず、発生圃場率は平年(5.9%、過去10年間のうち6年間は0%)並、ダイコンでは発生圃場率が11.1%で平年(27.6%)より低かった。

ウ. 9月27日発表の季節予報によると、10月の気温は平年よりも高く、降水量は平年並とされており、発病を助長する要因となる。

4) 黒腐病

予報内容

発生時期 並

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 9月24日の県予察圃場（ハクサイ）における調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 9月24～25日の巡回調査によると、キャベツでは発生を認めず、発生圃場率は平年（3.7%、過去10年間のうち8年間は0%）並、ハクサイでは平年同様発生を認めなかった。

ウ. 9月27日発表の季節予報によると、10月の気温は平年よりも高く、降水量は平年並とされており、高温は発病を助長する要因となる。

5) コナガ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は0頭で、平年（1.0頭、過去10年間のうち7年間は0頭）並であった。

イ. 9月24～25日の巡回調査によるとダイコンでの発生圃場率は33.3%で平年（29.4%）並、ハクサイ、キャベツでの発生は認められず、発生圃場率は平年（ハクサイ26.1%、キャベツ27.2%）より低かった。

ウ. 9月27日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、本虫の発生を助長する要因となる。

6) ヨトウガ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 9月24～25日の巡回調査によると、発生量は平年より少なかった。

イ. 9月27日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、本虫の発生を助長する要因となる。

7) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性モザイク病

予報内容

発生量	アブラムシ類	やや少
	モザイク病	やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市の黄色水盤における9月1～5半旬の飛来数は304頭で平年（386.5頭）よりやや少なかった。

イ. 9月24～25日の巡回調査によると、アブラムシ類の発生圃場率はダイコンでは0%で平年（0%）並、ハクサイでは0%で平年（7.5%）より低く、キャベツでは16.7%で平年（2.1%）より高かったが、発生程度は軽微であった。モザイク病は、ダイコン、ハクサイとも発生を認めず、発生圃場率は平年（ダイコン16.5%、ハクサイ10.0%）より低かった。

ウ. 9月27日発表の季節予報によると、10月の気温は平年よりも高く、本虫の発生を助長する要因となる。

8) ハスモンヨトウ

予報内容 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は1,422頭で

平年（2,288頭）より少なかった。

イ． 9月24～25日の巡回調査によると、発生量は平年よりやや少なかった。

ウ． 9月27日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、本虫の発生を助長する要因となる。

9) ハイマダラノメイガ

予報内容 並

予報の根拠

ア． 9月24～25日の巡回調査によると発生量は平年よりやや少なかった。

イ． 9月27日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、本虫の発生を助長する要因となる。

10) オオタバコガ

予報内容 並

予報の根拠

ア． 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は3頭で、平年（2.5頭）並であった。

イ． 9月24～25日の巡回調査によると、発生量は平年よりやや少なかった。

ウ． 9月27日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、本虫の発生を助長する要因となる。

4. キク

1) ナミハダニ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア． 9月24～25日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年（11.3%）より低かった。

イ． 9月27日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、本虫の発生を助長する要因となる。

2) オオタバコガ

予報内容 やや多

予報の根拠

ア． 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は3頭で、平年（2.5頭）並であった。

イ． 9月24～25日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ． 9月27日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、本虫の発生を助長する要因となる。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、
http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。